

すずか民報

第156号
2020年2月

日本共産党鈴鹿市議団 市議会報告

学校トイレ洋式化 来年度からスタート



神戸中学校のトイレ



古い和式トイレ(市内の小学校)

市教委は県下14市中13位と遅れている小中学校のトイレの洋式化を、20年度から40校中改築済3校を除き14校を計画的に改修するとし、20年度にまず神戸小・桜島小の2校の改修工事をこなうための設計費を12月補正予算に計上しました。

14校の改修方式は、校舎各階1カ所に限定して、早く多くの学校で改修をすすめます。他の24校については校舎そのものを改修または改築する際にトイレ洋式化を行ないます。

6月議会で高橋さつき議員が取り上げ、10年前前にトイレ改修を取り組み、洋

式化率が県下一となった亀山市のように、鈴鹿市も集中的に行なうよう求めました。中道教育長・末松市長は鈴鹿市の遅れをみとめ、計画的に取り組むと答えた

学校施設の老朽化への 対策も緊急の課題

「学校ウォッチング」で
修繕の要望が続出

鈴鹿の女性団体「新日本婦人の会」鈴鹿支部(桑原千賀子会長)は8～10月に、子どもたちが通う学校の現場を見る「学校ウォッチング」に取り組み、ほとんどの小中学校を回り施設を見て、校長先生らに話を聞きました。

多くの学校が昭和40～50年代の建設で、老朽化した校舎や体育館、プール、トイレ、遊具などの修繕が十分できず、雨漏りや故障、使用禁止などで困っている状態が出されました。

また、先生が忙しすぎ、長時間労働、カウンセラーや介助員などのスタッフも不足、など人的な問題も共通して話されました。

ことが、今回の補正予算で具体化されました。全市の学校で、早く改修を進めることが求められます。



高橋さつき 市議



教育予算を
一般会計の10%以上に
増やして解決を

12月議会で高橋さつき議員は、会がまとめた報告書をもとに質問しました。

どの学校も日常の定期的な点検は行っているが、修繕が追いつかず積み残しになっている。維持管理・修繕予算が不足していることが問題で、教育委員会の予算そのものを増やさなければ解決できない。教育予算が一般会計の10%もないのは鈴鹿市だけで、他市並みに

マイナンバーカード 政府が 自治体に「普及目標」押しつけ

2016年から国が導入した「個人番号」(マイナンバー)は、税や社会保障などに使うとされていますが、市民にとっては特にメリットはありません。政府が国民全員に一生変わらない番号を付け、多分野の個人情報を一括して管理・利用できるようにすることは、プライバシー権の侵害の危険があり、日本弁護士連合会がこの制度に反対を表明しています。

12月議会でマイナンバーカード普及のための補正予算が提出されました。個人番号と写真入りのカードを各人が持つことは、3年間で市民の82%に持たせる「普及目標」を押しつけ、またカードを健康保険証などに使えるように制度を変えようとしています。

鈴鹿市も政府の方針に従わされてカードの「交付円滑化計画」を立て、3年後の2022年3月には普及率82%にすることを目標に態勢を作ることになりました。

戸籍住民課に専任の臨時職員6人を配置、税金申告会場を回るなどして市民にカード申請をさせる予定ですが、目標を達成するには毎日200人以上の新規カード発行が必要という、とてもムリな計画になります。

共産党市議団は、本来の市の業務でもないムダな仕事に手間と人と予算を使う、マイナンバーカード普及予算に反対しました。



老朽化が進む体育館(庄野小)

